

救急車の安全走行 確保へ損傷部補修

前田道路「いのち
の道」PJに参画

前田道路は、北海道科学大工学部都市環境学科の亀山修一教授が提唱する「いのちの道」プロジェクト（PJ）の一環として、救急車の安全な走行性を確保するため、道路舗装を補修した。写真。

北海道は、一つの救急救命センターがカバーする面積が全国平均の約5倍で、長距離搬送も珍しくない。救急搬送時の道路舗装に起因する振動は患者に悪影響をもたらすこ



とから、舗装の損傷箇所などでは減速する必要があり、搬送時間の増加につながる。このため、橋梁ジョイントの段差やひび割れ、路面の凹凸な

どの損傷の補修が急務となっている。

同社は、釧路市と網走市を結ぶ国道391号の磯分内跨線橋の釧路方面上り線（弟子屈町）を対象に、橋梁部の段差（最大2・5^{センチ}程度）を補修した。補修材料は、積雪など厳しい環境下でも破損しない高い耐久性が求められる。このため、優れた施工性と高い耐久性を持つ速硬型ポリマーセメント系の常温補修材を使用した。今後は冬季の積雪や雪解け、除雪による影響など長期間での供用性を検証する。

引き続き長期間の走行安全性の確保に向けて製品の改良を進める。

